

蒜山地域酪農拠点再構築コンソーシアムの 設立について

令和7年12月

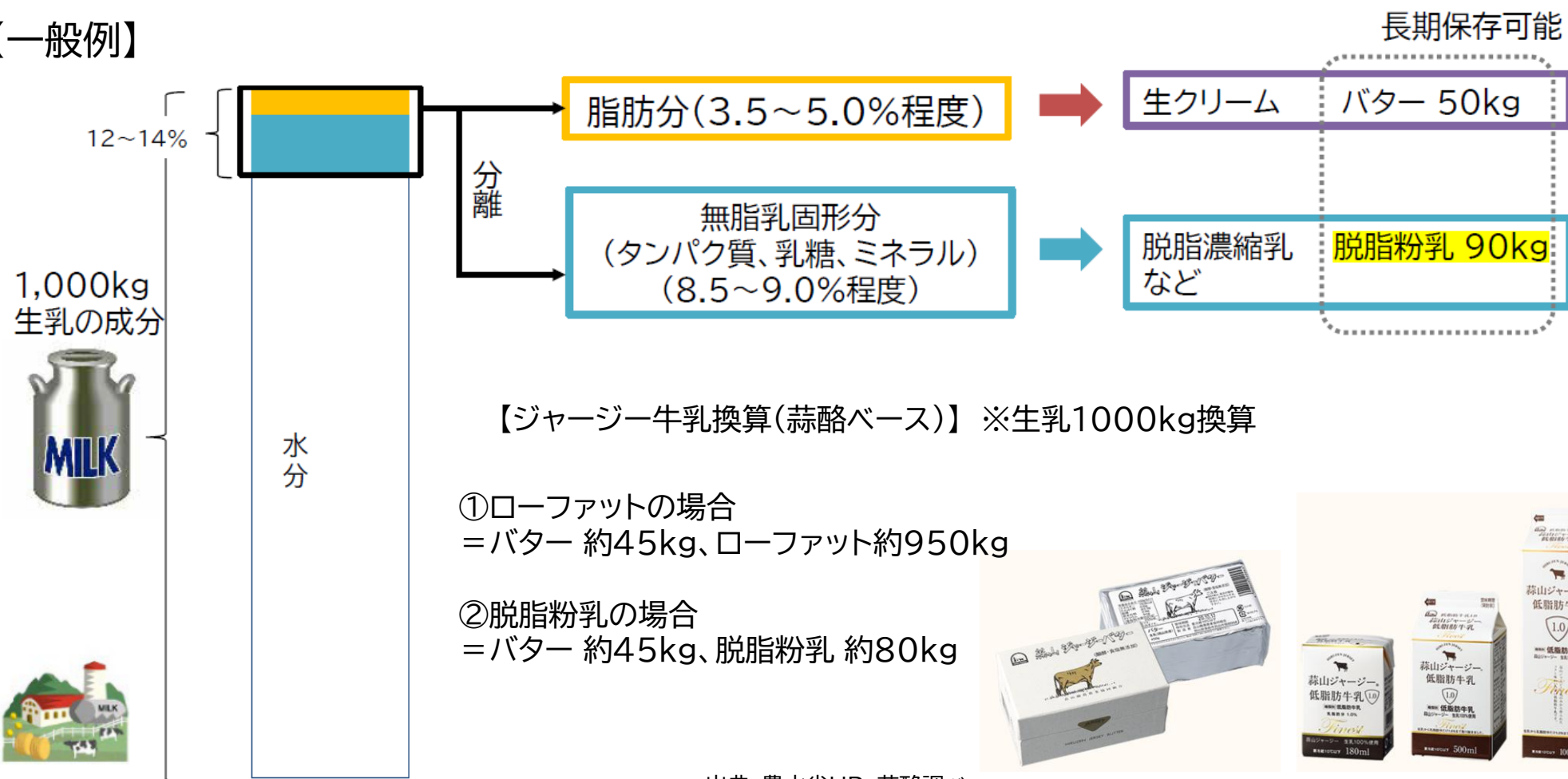
真庭市産業観光部 農業振興課・産業政策課

コンソーシアム構築のきっかけ①(脱脂粉乳について)

- 脱脂粉乳は生乳から遠心分離等によりクリーム・バターを製造する過程で生じる。
- バター等の需要に応える目的のほか、長期保存ができない牛乳に対して、過剰供給や生乳廃棄を回避する需給の調整役として位置付けられてきた背景がある。(北海道は主に加工向け、本州が飲用向け)

= 「飲む消費」・「加工品の消費」に対して、「毎日生乳は絞らないといけない」との調整

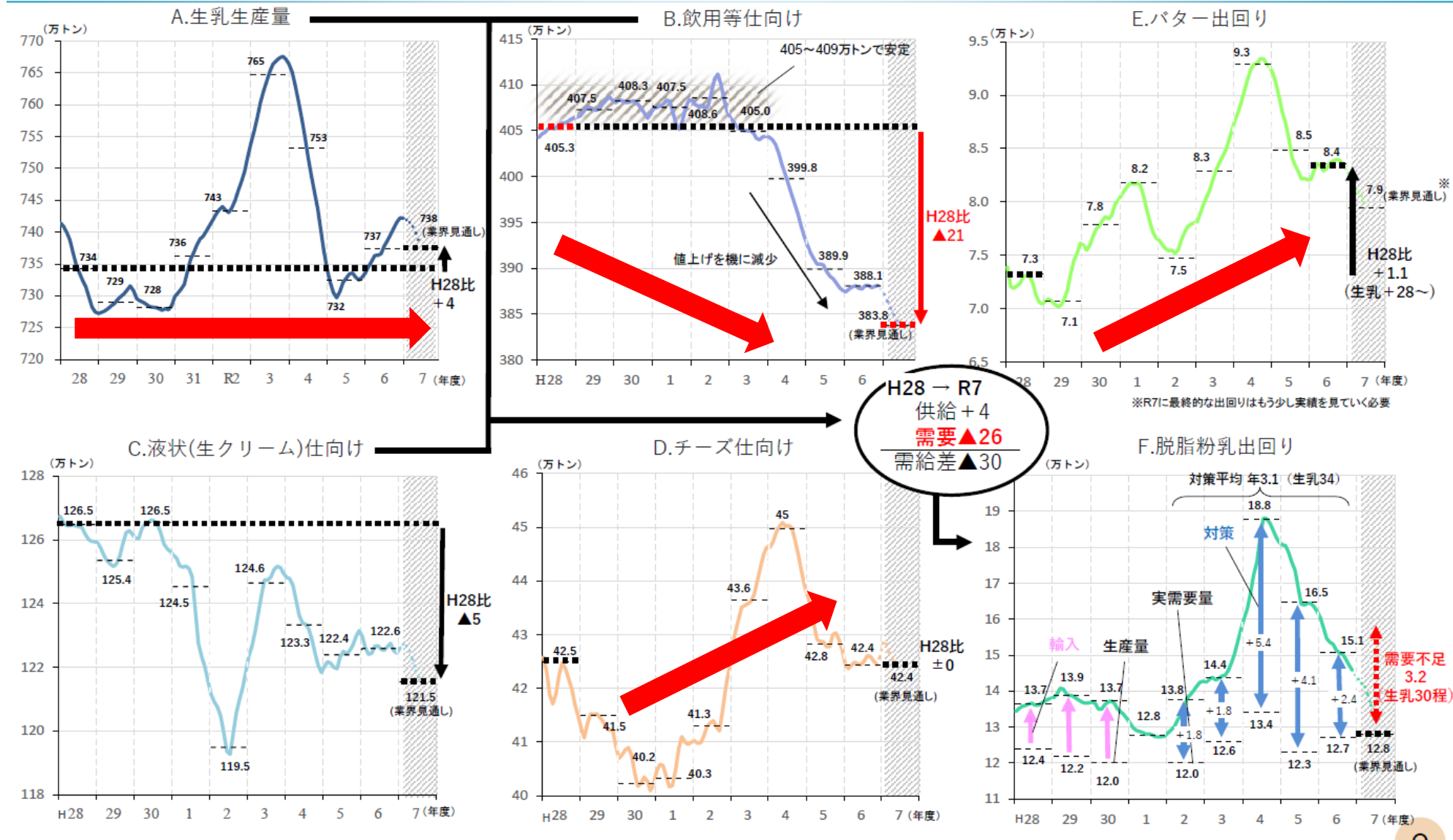
【一般例】



出典:農水省HP、蒜酪調べ

コンソーシアム構築のきっかけ③(需要トレンドについて)

○ 生乳生産量はおおむね横ばい、飲用乳は減少トレンド、加工品は増加トレンド

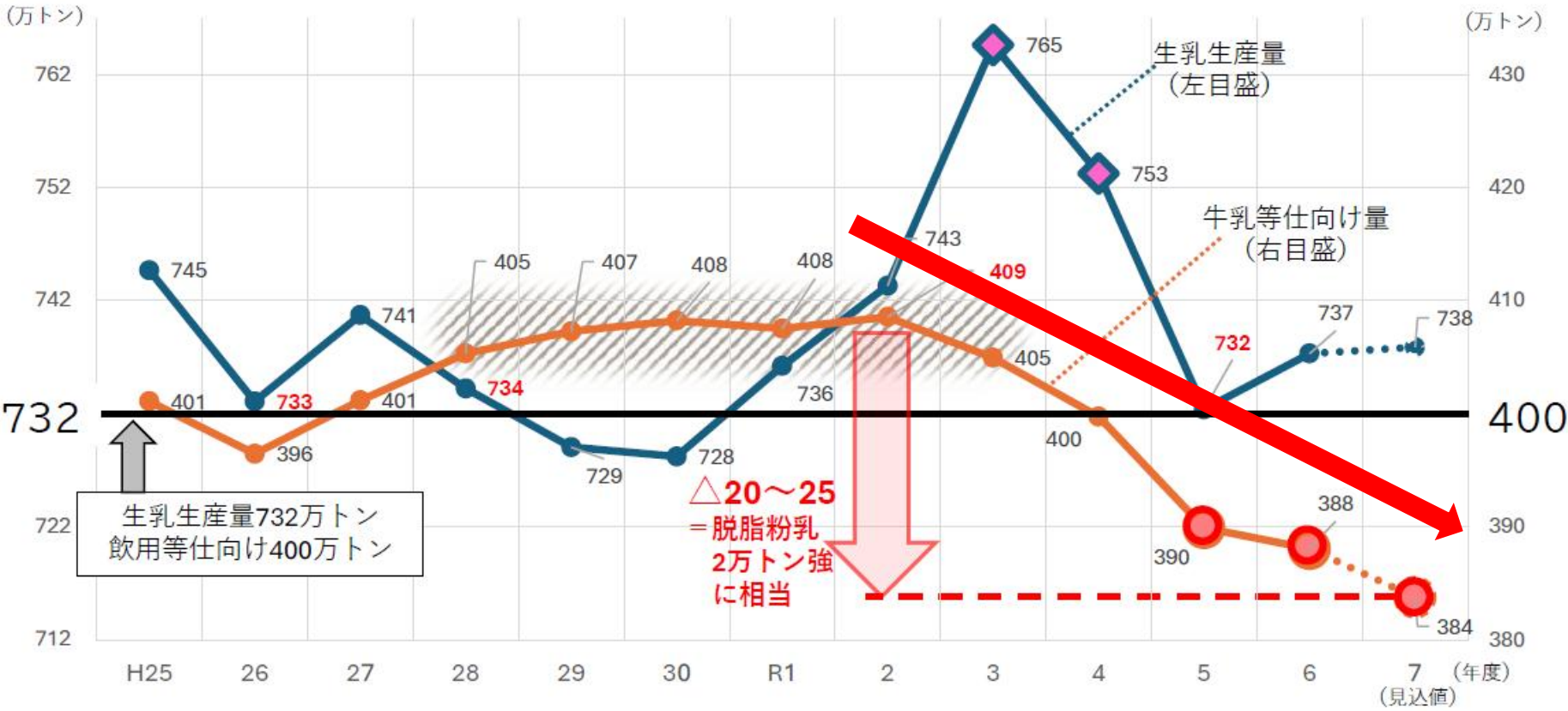


出典:農林水産省HP

☆需給の「調整弁」がR3~5にかけての動向で良く見える(コロナ)

コンソーシアム構築のきっかけ④(牛乳(飲用乳)需要と脱脂粉乳の関係)

- 脱脂粉乳在庫はコロナなどの需給調整の影響もあるが、飲用乳需要の長期的な減少やヨーグルト等への脱脂粉乳等の利用減少は、調整弁としての加工品の副産物(＝脱脂粉乳)の積み上がりにも直結
- H28年度からR3年度の牛乳等仕向けは405～409万トンであったのに対して、R7年度の見込みは384万トンと20～25万トンの需要が減少。これは脱脂粉乳で2万トン強に相当



令和7年度末の脱脂粉乳在庫見通し

※ 農林水産省HPより引用

8万4400トン(前年度比:約62%増)

参考(国等の取組)

○ 業界を挙げた消費拡大の取組

- ✓ 脱脂粉乳を活用した新商品の開発
- ✓ ヨーグルトの消費拡大に向けたCM等PRの展開


私らしく
ヨーグルト
新発見



○ 官民連携の事例

- ・牛乳でスマイルプロジェクト

○ 共通ロゴマーク




○ 連携した取組例

- ✓ 乳業 × 調理専門学校による牛乳を用いた食品の販売
- ✓ 小売 × 食品メーカーによる牛乳乳製品を活用した料理のための食材の割引

○ 地方自治体による取り組み事例

- ✓ 産官学連携プロジェクトとして調理製菓専門学校とコラボし、県産牛乳を使ったパンを商品開発、県アンテナショップで期間限定販売
- ✓ 町公式SNSで町の酪農の紹介や乳和食を紹介する動画を配信 等


○ 学校給食用牛乳等供給推進の取組



学校給食用牛乳供給円滑化推進事業

- 栄養士や教諭など関係者の理解醸成活動
- 配送効率化に向けた取組(隔日配送等)等の実施を支援

○ 高校等における自動販売機の設置



- 学校給食が無くなることで牛乳の飲用機会が低下する
- 高校生を対象とした健康増進等を目的に高校等への自動販売機設置を推進
- 令和6年度には、全酪が実施主体となり東京都内で実証。引き続き、各地の酪農団体を通じたこうした取組の普及を支援

※その他、地方創生臨時交付金を活用した地域の取組など



酪農乳業需給変動対策
特別事業のポイント

概要

国内全ての酪農家と乳業メーカーが拠出し基金を造成。大幅な需給変動に対処できる事業に活用

事業の内容

- 乳製品在庫削減対策
- 飼料用への転用、輸入調整品との置き換え、海外へ輸出、市場隔離
- 計画的増産対策

※検討中 (出所: Jミルク)

2025年2月5日記事
日本農業新聞記事より引用

(注)11月7日現在で同事業の発動が判明

農水省HPより引用

57 国産牛乳乳製品の需要拡大・競争力強化対策事業

令和7年度補正予算額(所要額) 13,300百万円

<対策のポイント>
生乳需給及び酪農経営の安定を図るため、牛乳乳製品の需要拡大、国産チーズの生産奨励・生産性向上及び脱脂粉乳の在庫低減等に係る民間の取組を支援します。

<事業目標>
○ 国産生乳のチーズ向け需要量 42万t [令和12年度]
○ 生乳生産量: 732万t→732万t [令和12年度]
○ 牛乳乳製品の需要量 1,152万t (生乳換算) [令和12年度]

<事業の内容>	<事業イメージ>
1. 国産牛乳乳製品の需要拡大等事業 国産牛乳乳製品の需要拡大に向けた販路拡大への支援、国産脱脂粉乳等を活用した新商品の開発・製造・販売への取組を支援します。	1.の事業 国産牛乳乳製品等 → 新商品開発 イベント開催 ECサイト販売
2. 国産チーズの生産奨励に対する事業 酪農家が、実需の求める高い品質を確保するため、飼養管理や乳質管理の高度化等に取り組む費用の一部を支援するとともに、特色あるチーズ生産や輸出の取組、国産チーズ向け生乳の販売拡大等の取組を支援します。	2.の事業 国産チーズの需要拡大の取組 → 国産チーズの生産奨励(国産チーズの生産拡大) 国産チーズの輸出(国産チーズの輸出)
3. チーズ工場・中小乳業等の生産性向上・ブランド化等に対する支援 輸出向けチーズ生産も視野にチーズ工場、中小乳業等におけるチーズの生産力強化に必要な施設整備を支援します。また、国産チーズの国内コンテスト開催等により地域の特色を活かしたチーズ生産拡大への取組等を支援します。	3.の事業 ①チーズ工場・中小乳業等の生産性向上支援(国産チーズの生産拡大) ②国産チーズの品質向上等支援(国内コンテスト開催) (食文化普及イベント)
4. 生産者団体や乳業等が行う脱脂粉乳の在庫低減対策等 在庫水準が高くなっている脱脂粉乳について、民間事業者が協調して行う、国産脱脂粉乳を飼料用として販売する取組等を支援します。	4.の事業 国産脱脂粉乳を飼料用として販売する取組を支援 乳製品の計画的な販売に待ったを要する経費等を支援
5. 生乳熱対応推進緊急対策 暑熱対策として、飼養環境の改善に必要な資機材の導入や、夏季における人工授精から受精卵移植(黒毛和種除く)に転換する取組等を支援します。	5.の事業 ①暑熱対策資機材の導入支援 ②夏季における受精卵移植(黒毛和種除く)の取組支援

<事業の流れ>



国 → 1/3以内 ALIC → 民間団体・生産者団体等 (1～5の事業)
1/2以内 乳業者等 (3の①の事業)

コンソーシアム構築のきっかけ⑤(蒜酪の動向)

- 蒜山酪農農業協同組合(以下「蒜酪」)では、ジャージー牛の特性上、バターが高価だったこともあり、これまでは脱脂粉乳需要の方が優位で、バター在庫を一定数抱えていた状況。
- 一方で、近年の為替相場の影響等による海外産バターの値段高騰などを受け、国産バターへの需要転換が発生。バターの需要が増加。
- また、全国同様に飲用乳やヨーグルトの需要が減少トレンドにあり、ジャージー牛の特性を活かした加工品需要による収益増加が求められる。

【蒜酪商材の売り上げ動向】

市乳(※)

前年度比
約92%

ヨーグルト

前年度比
約93%

バター

前年度比
約124%

※飲用乳商材が複数あるための呼称

【年度末の脱脂粉乳在庫見通し(蒜酪聞き取り調べ)】

約4500kg

(これまで3000kgの需要に対し、需要量が4500kg増加)

蒜山の酪農継続のためには、乗り越えなければならない壁
+ 社会的インパクトも大きい！

※ 蒜酪定時総会資料より引用



コンソーシアムでの役割分担

直近は脱脂粉乳等の需要創出

将来に向け、様々な課題に挑戦する
コンソーシアムを目指します



蒜酪(原料供給)

TUSIMCo

東京理科大学インベストメント・
マネジメント株式会社



株式会社MycoGenome

東京理科大学チーム
(研究・商品開発)

官民一体となって
強みを活かした需要創出



丹後王国ブルワリー
(加工・商品開発)



プロジェクト並走
(カルマニ)



真庭市
(資金提供・情報共有)

ABC
Cooking Studio

ABC Cooking Studio
(商品開発)